

令和2年度
第2次相模原市
消費生活基本計画
年次報告書



相模原市
消費生活総合センター
令和3年9月2日

はじめに

近年、高度情報化や経済のグローバル化等により、私たち消費者を取り巻く環境は一層複雑化・多様化しております。

また、高齢化の進行や成年年齢の引下げ、外国人の増加等により、いわゆる「脆弱な消費者」が増える中で、高齢者をはじめとする社会的弱者を狙った悪質商法による消費者被害は後を絶たず、消費者施策の取組の強化が求められています。

こうした中、本市では、令和2年3月に策定した「第2次相模原市消費生活基本計画」の中で「消費者の安全の確保」や「消費者被害の救済体制の強化」などの基本施策を掲げて、消費者としての権利の確立と自立の支援及び安全で安心できる消費生活の確保を目指して、取組を進めております。

本報告書は、この基本計画に基づく様々な施策及び事業の実施状況をまとめることで、今日の消費者を取り巻く環境を示したものでございます。

令和2年度におきましては、新型コロナウイルス感染症の拡大防止に配慮した非接触型の啓発手段として、コミュニティFMで『「大事な人を見守り隊!」消費生活センターお役立ち情報』の放送を開始したほか、メールマガジン配信事業の拡充策として、新たにSNSを活用するなど、より幅広い皆様への働きかけの強化を実施いたしました。

今後も、新たな課題への対応を進める中で、市民の皆様が安全で安心して消費生活を送ることができるよう、国民生活センターなどの専門機関、関係団体及び、事業者との緊密な連携・協力のもと、消費者行政を積極的に推進してまいります。

令和3年9月

相模原市長 本村 賢太郎

目 次

第1章 第2次相模原市消費生活基本計画の概要	1
第2章 消費生活をめぐる現状	
1 令和2年度における消費者問題の傾向と国の取組	4
2 相模原市における消費生活相談の現状	4
第3章 令和元年度消費生活に関する施策の実施状況	
1 主な取組状況と課題	9
2 事業実施状況	16
3 実施状況一覧	18

第1章 第2次相模原市消費生活基本計画の概要

1 計画の目的

市民の消費者としての権利の確立と自立を支援するとともに、市民が安全で安心できる消費生活を確保できるよう、消費生活に関する施策を総合的かつ計画的に推進することを目的とします。

2 計画の位置付け

消費者問題の複雑化・多様化を受け、消費者行政の一層の充実を図るため、平成21年に制定した相模原市消費生活条例（平成21年相模原市条例第65号）第9条に基づき、平成24年3月に、本市における初めての消費生活基本計画（以下「第1次計画」という。）を策定しました。

第1次計画は、新・相模原市総合計画の部門別計画に位置付けられており、あわせて消費者基本法（昭和43年法律第78号）に定められている地方公共団体の責務（社会的、経済的状况に応じた消費者政策を推進する責務）を果たすもので、平成24年度から令和元年度までの8年間を計画期間（平成27年度に中間改訂）として実施しました。

「第2次相模原市消費生活基本計画」（以下「第2次計画」という。）は、第1次計画の計画期間の終了に当たり、第1次計画の理念と方針を継承しつつ、社会の変化に対応した新たな取組を加え、令和2度からの8年間の施策を示すため策定しました。

3 第2次計画の期間

令和2年度から令和9年度までの8年間（令和5年度に検証を実施予定）

4 第2次計画の体系

（1）基本施策と具体的な施策

消費者を取り巻く環境は、高齢化の進行や、情報化・国際化の進展により急速に変化しています。悪質商法をはじめとする消費者問題は社会情勢の変化に応じて生じるため、消費者行政における施策は最新かつ柔軟な対応が求められています。

そのうえで、自立した消費者の育成や消費者被害の防止体制の整備など、着実に取り組む必要があることから、次に掲げる5つの基本施策を設定します。

また、基本施策ごとに取り組むべき具体的な施策（16項目）を設定しており、

これらの対象となる個別の事業について、実施状況を確認し、評価を行います。

①基本施策Ⅰ 「消費者の安全の確保」

消費者の安全・安心と自主的かつ合理的な選択の機会を確保するために、身近な生活用品、食品等に対する調査を実施し、原材料、含有成分、使用上の注意、内容量等の表示及び計量の適正化に向けた指導及び啓発を行います。

具体的施策

- 施策1 商品・サービスの安全性の確保
- 施策2 食の安全性の確保
- 施策3 住まいと居住環境の安全性の確保
- 施策4 消費者取引の適正化
- 施策5 表示の適正化
- 施策6 計量の適正化

②基本施策Ⅱ 「消費者被害の未然防止と救済体制の強化」

消費生活相談窓口の周知や相談機能の充実、消費生活相談員の対応能力向上に係る取組を行い、より迅速かつ的確な相談体制を確立するとともに、関係機関との情報交換や迅速な情報提供による被害の未然防止と救済体制の強化を図ります。

特に、判断能力が十分でないことにより、消費者被害に巻き込まれやすい高齢者や障害者等に対しては、地域包括支援センターや民生委員・児童委員、自治会、事業者団体など関係団体と連携・協働した見守りを実施し、被害の未然防止と救済体制の強化を図ります。

具体的施策

- 施策7 消費生活相談の充実
- 施策8 消費者被害の未然防止と救済

③基本施策Ⅲ 「消費者教育の推進と情報提供の充実」

自分自身の消費行動が社会に及ぼす影響や、主体的に消費者市民社会の形成に参画することの重要性について理解し、自主的かつ合理的な判断や選択ができる自立した消費者を育成するため、ライフステージに応じた事業の実施及び学校や地域主催事業などへの講師派遣等により消費者教育を推進するとともに、消費者教育または消費者をサポートする役割を担う人材を育成することで、学校や家庭、地域など様々な場面において消費者教育や啓発を行う機会の拡充を図ります。

特に、令和4年4月1日施行の民法改正により成年年齢が18歳に引き下げられ、社会経験が少ない等、交渉能力が十分でなくても契約の機会が増加することから、消費者被害の未然防止について学校と連携した事前の対策を進め

ます。

また、消費生活情報や消費者問題について、広報紙、市ホームページ等の多様な媒体を活用することにより、情報を迅速かつ適切に発信、啓発を行います。

具体的施策

- 施策 9 ライフステージ別の消費者教育の推進
- 施策 10 消費者教育の担い手の育成
- 施策 11 消費生活情報の提供・啓発

④基本施策Ⅳ 「環境に配慮した消費行動の促進」

グローバル経済社会の現在において、消費者が自らの選択が世界へ及ぼす影響を自覚し、より良い消費行動を通して持続可能な社会の形成に参画することの理解と関心を深めるため、資源の循環や環境の保全をはじめ、社会への主体的な行動に向けた周知や啓発、関係機関等との協働等による事業を推進します。

具体的施策

- 施策 12 より良い消費行動の促進
- 施策 13 環境負荷の低減に向けた基盤の整備

⑤基本施策Ⅴ 「消費者意見の反映と連携の強化」

市民に対する意識調査等の結果を分析することにより、消費生活に関する市民意見の把握に努め、消費者施策への適切な反映を図ります。

また、消費者団体や事業者団体等の様々な団体との情報交換や連携、協働により、それぞれの強みをいかした消費者施策の推進に努めます。

具体的施策

- 施策 14 消費者意見の反映
- 施策 15 消費者団体等との連携及び育成
- 施策 16 事業者団体等との連携

(2) 推進体制

計画の実効性を確保するため、毎年度、各施策の進捗状況等をまとめ、市民、消費者団体代表、事業者団体代表、学識経験者等により構成される「相模原市消費生活審議会」に報告を行います。

第2章 消費生活をめぐる現状

1 令和2年度における消費者問題の傾向と国の取組

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大により、政府が緊急事態宣言を発令するなど、社会や暮らしが大きく変化しました。消費生活でも新型コロナウイルス感染症の流行に便乗した悪質商法が見られたほか、「インターネット通販」や「定期購入トラブル」など、オンライン取引に関連した相談が目立つ年になりました。

令和2年12月に独立行政法人国民生活センターが公表した「消費者問題に関する2020年の10大項目」は、次のとおりとなっています。

- ・新型コロナウイルス感染症が流行 消費生活にも大きく影響
- ・キャッシュレス決済 利用進むも不正使用相次ぐ
- ・販売を伴う預託等取引契約は原則禁止 消費者庁検討委員会が意見を提示
- ・デジタル・プラットフォーム等に関する消費者取引の環境整備を検討
- ・年齢問わず発生 無くならない身の回りの事故
- ・子ども、高齢者を問わずオンライン関連の相談増加
- ・「お試し」定期購入のトラブルが過去最高
- ・改正民法施行 消費生活にも密接に関連
- ・特定適格消費者団体による被害回復訴訟で初めての判決が確定
- ・国民生活センター創立から半世紀を迎える

2 相模原市における消費生活相談の現状

相模原市では消費者問題の解決を図るため、市内に3か所ある消費生活センターに一定の資格を有する消費生活相談員を配置し、電話及び面接による消費生活相談を行っています（令和2年12月の相模原市市議会においてセンター条例の改正について可決を得て、令和3年4月より3か所の消費生活センターを1センターに集約し、消費生活行政の強化を図ることといたしました。）。

（1）相談員資格

消費生活相談員（(独)国民生活センターの資格試験に合格した者）又は、次のうち、1つ以上の資格を有する者を消費生活相談員として採用しました。

- ・消費生活専門相談員（(独)国民生活センターの認定試験に合格した者）
- ・消費生活コンサルタント（(財)日本消費者協会の養成講座を修了した者）
- ・消費生活アドバイザー（(財)日本産業協会の認定試験に合格し、研修を修了した者）

（2）相談場所と相談日時

①消費生活総合センター（毎日（年末年始を除く））
中央区相模原 1-1-3 シティ・プラザさがみはら
電話番号 042-776-2511
相談時間 午前9時～午後4時（第2・4金曜日は午後6時まで）
土日祝日は午前9時～正午、午後1時～午後4時

②北消費生活センター（月～金曜日（祝日・年末年始を除く））
緑区橋本 6-2-1 シティ・プラザはしもと
来所相談のみ、要予約
相談時間 午前9時～正午、午後1時～午後4時

③南消費生活センター（月～金曜日（祝日・年末年始を除く））
南区相模大野 5-31-1 南区合同庁舎3階
来所相談のみ、要予約
相談時間 午前9時～正午、午後1時～午後4時

(3) 消費生活相談員人数（令和3年3月31日現在）
9名（うち1日あたり5～6名を交代で配置）

(4) 消費生活相談件数の推移

①相談件数（苦情相談件数と問い合わせ件数）

相談件数は、架空請求が大きな社会問題となった平成16年度の12,968件をピークとして、以後減少を続け、近年はほぼ横ばいで推移していましたが、平成30年度は、はがき等による架空請求に関する相談が多く寄せられたことにより、相談件数が急増しました。令和元年度は前年度と比べて減少したものの、平成30年度を除くと増加傾向にあります。

令和2年度は、低年齢層のオンラインゲームの高額な課金や健康食品等の定期購入、旅行や結婚式などのキャンセル料に係る相談、スポーツジムやヨガ教室での解約手続きに係る相談などが多数発生しました。こうした相談が増えた理由は、新型コロナウイルス感染症の影響が大きく、在宅時間や緊急事態宣言によるキャンセルが増えたためと推測されています。相談件数は6,000件を超え、令和元年度の件数に近い数字となりましたが、苦情相談だけで見ると前年度よりは若干減少しました。

年 度	苦情相談（件）	問い合わせ（件）	相談合計（件）	前年度比（％）
令和2	5,572	536	6,108	94.5
令和元	5,915	550	6,465	89.8
平成30	6,602	593	7,195	131.6
平成29	5,009	458	5,467	95.9
平成28	5,225	475	5,700	103.1

②消費生活相談内容（苦情相談）

平成29年度までの相談内容は、インターネットを介した情報サービス等に関するトラブルやメールによる架空請求といった「デジタルコンテンツ」が1位となっていました。平成30年度以降は、はがき等による架空請求に関する相談が多く寄せられたことにより、「商品一般（分類を特定できない商品に関する相談）」が1位となりました。令和元年度は、ダイエットやバストアップ、筋力増強等のための健康食品の定期購入に関する相談件数が増加したことから、「他の健康食品」が5位となりました。

令和2年度は、「他の健康食品」の相談が、新型コロナウイルス感染症の影響で4位に伸びたほか、インターネットを通じた通信販売や一人暮らしの高齢者宅を狙うかの様な訪問販売の被害の相談が多く寄せられました。

年 度	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
令和2 (5,574 件)	商品一般 (603 件)	デジタルコンテンツ (432 件)	工事・建築 (302 件)	他の健康食品 (269 件)	不動産貸借 (226 件)
令和元 (5,915 件)	商品一般 (1,311 件)	デジタルコンテンツ (446 件)	工事・建築 (230 件)	不動産貸借 (219 件)	他の健康食品 (172 件)
平成30 (6,602 件)	商品一般 (2,406 件)	デジタルコンテンツ (593 件)	不動産貸借 (235 件)	工事・建築 (207 件)	携帯電話サービス インターネット接続回線 (116 件)
平成29 (5,009 件)	デジタルコンテンツ (720 件)	商品一般 (634 件)	不動産貸借 (235 件)	工事・建築 (185 件)	インターネット接続回線 (131 件)
平成28 (5,225 件)	デジタルコンテンツ (1,019 件)	商品一般 (325 件)	不動産貸借 (281 件)	工事・建築 (197 件)	インターネット接続回線 (153 件)

【商品一般】 身に覚えがない商品の請求はがきなどに関する相談

【デジタルコンテンツ】 出会い系サイトなどインターネットを介した被害に関する相談

【工事・建築】 住宅リフォームや建物の請負工事などに関する相談

【他の健康食品】 サプリメント等による健康被害などに関する相談

【不動産貸借】 敷金の返還や現状回復・退去時などに関する相談

③契約当事者の年代別内訳

問い合わせを除く、苦情相談における契約当事者の年代別内訳については、70歳以上からの相談が最も多く、60歳代の相談割合を含めると全体の約4割を占めています。令和元年度は平成30年度と比較すると30歳代から50歳代の相談件数が増加し、中高年の相談割合が高まりました。

令和2年度は60代と70歳以上の年代の相談が前年度より減少しており、平成30年度から比較しても減少の傾向にあります。

年 代	令和2年度	令和元年度	前年度比
20歳未満	51件(0.9%)	61件(1.0%)	83.6%
20代	473件(8.5%)	462件(7.8%)	102.4%
30代	635件(11.4%)	516件(8.7%)	123.1%
40代	989件(17.7%)	932件(15.8%)	106.1%
50代	1,180件(21.2%)	1,121件(19.0%)	105.3%
60代	759件(13.6%)	1,007件(17.0%)	75.4%
70歳以上	1,209件(21.7%)	1,549件(26.2%)	78.1%
団体・不明	278件(5.0%)	267件(4.5%)	104.1%
合 計	5,574件(100%)	5,915件(100%)	94.2%

(5) 多重債務相談件数の推移

多重債務相談は、債務を負って生活が苦しいなど、自らの債務を整理することを希望する相談者と横浜弁護士会（現神奈川県弁護士会）、神奈川県司法書士会の協力により、北消費生活センターで週1回（木曜日）の専門相談（多重債務相談）を実施しているものです。改正貸金業法が完全施行となった平成22年度の407件をピークとして減少傾向にありましたが、平成29年度以降、増加傾向に転じていました。令和2年度は、相談件数は前年度より減少しましたが、これは、相談自体が減少したのではなく、コロナ禍で弁護士相談自体の開催が出来なかったことによるものです。

年 度	弁護士 相談	司法書士 相談	市の専門相談 以外への紹介等	多重債務相談 (合計)	前年度比
令和2	12件	0件	76件	88件	83.8%
令和元	39件	0件	66件	105件	101.9%
平成30	51件	0件	52件	103件	108.4%
平成29	47件	0件	48件	95件	84.1%
平成28	67件	0件	46件	113件	129.9%

※平成22年度の多重債務相談件数（合計）407件

※平成22年6月18日に改正貸金業法が完全施行され、個人の借入総額を年収の3分の1までに制限する「総量規制」の導入、出資法の上限金利を29.2%から20%に引き下げ、「グレーゾーン金利」（利息制限法に定める上限金利は超えているが、出資法に定める上限金利には満たない金利。改正前の消費者金融の多くはこの範囲内で金利を設定していた。）の撤廃などが行われました。

第3章 令和2年度消費生活に関する施策の実施状況

1 主な取組状況と課題

《基本施策Ⅰ 「消費者の安全の確保」》

(別紙) 実施状況一覧 P17~P21

【主な取組】

1 商品・サービスの安全性の確保

- 消費者庁及び神奈川県等と随時情報交換を行い、商品及びサービスに関する危害情報・危険情報の収集を行うとともに、情報の内容に応じてホームページ等を通じて情報提供を行い、危害の未然防止・拡大防止に努めました。
- 旅館業、興行場、公衆浴場、理容所、美容所、クリーニング所の環境衛生営業施設に対し、法令に基づく監視指導を行い安全性の確保に努めました。
- プール施設において管理運営の徹底を図り、危険防止のための監視指導を実施しました。

2 食の安全性の確保

- 市内に流通する食品や市民から依頼のあった食品について、放射性物質検査を実施し、その結果をホームページを通じて情報提供しました。
- 食品衛生関係施設への立入検査を実施し、法令に基づく衛生指導を行いました。
- 食品衛生責任者等への衛生講習会を開催し、食品等事業者による自主的な衛生管理の促進を図りました。
- 食の安全・安心に係るリスクコミュニケーションを推進するため、消費者団体、食品等事業者、学識経験者、市民で構成する「相模原市食の安全・安心懇話会」を開催し、情報提供及び意見交換を行いました。

3 住まいと居住環境の安全性の確保

- 建築物の耐震に関する相談を窓口及び電話等で受け付け、補助制度などを情報提供するとともに、専門家による巡回相談を行いました。
- シックハウス症候群や居住環境の不安に関する相談を受け付け、情報提供を行いました。
- 土砂災害ハザードマップ、洪水ハザードマップ、浸水（内水）ハザードマップを関係各課・機関の窓口で配布するとともに、ホームページにおいても情報提供を行い、WEB上で避難場所や各種ハザード情報が住所検索できる「さがみはら防災マップ」を公開しました。

4 消費者取引の適正化

- 神奈川県等との連絡会議により、不適正な取引行為を行う事業者の情報交換等を行いました。

5 表示の適正化

- 食品表示に関して関係各課に寄せられた相談事例の共有及び情報交換を行いました。
- 食品関連事業者等に対して栄養成分表示の表示方法や表示内容、食品の広告内容に関する指導を行いました。
- 食品表示法に基づく原産地、原材料等の品質事項について、事業者からの表示に関する相談に対応し、食品表示の適正化を図りました。

6 計量の適正化

- 計量法に基づき、取引や証明行為に使用される計量器について、定期検査を行いました。
- 神奈川県等と連携し、計量に係るポスターを公共施設に掲示するなど普及啓発を行いました。

【成果・評価】

消費者の身近な生活用品や食品を中心に、検査や指導を行うとともに、各課・機関との連携を図ったことにより、安全・安心の確保及び合理的な商品選択の機会の確保を行うことができました。

【課題】

消費者の安全・安心を確保するために、製品や食品の安全等に関わる法律や制度の情報について、引き続き市民へ周知・啓発をしていくとともに、事業者に対しては周知及び基準等の遵守の徹底を図る必要があります。

また、専門的な検査体制の充実を図り、効果的な検査を実施していくとともに、社会情勢等に応じた検査内容の見直しを図る必要があります。

《基本施策Ⅱ 「消費者被害の未然防止と救済体制の強化」》

(別紙) 実施状況一覧 P22~P24

【主な取組】

7 消費生活相談の充実

- 新型コロナウイルス感染症対策として、消費生活センターを1センターに集約し、電話回線の増設や一部リモート化できるように整備しました。
- エフエムさがみにてラジオ放送を開始したり、郵便局にある現金封筒に広告掲載をしたりするなど、相談窓口の周知を図りました。
- 多重債務問題の早期解決を図るため、神奈川県弁護士会、神奈川県司法書士会の協力により、弁護士・司法書士による多重債務の専門相談を行いました。
- 消費生活相談員の相談対応力の向上のため、研修機会の充実を図りました。

8 消費者被害の未然防止と救済

- 成年後見制度の利用により、判断能力が十分でない方で身寄りがない場合等に、本人に代わって市長が審判申立ての手続きを行いました。
- 選任された市民後見人に対して活動支援を行いました。
- 日常生活において財産の保全又は管理が困難な障害者・高齢者等の権利を擁護し、在宅生活の安定を図るために社会福祉協議会が実施している日常生活自立支援事業を支援しました。
- 相談件数が多い高齢者等の消費者被害の救済及び未然防止を図るため、地域包括支援センターや民生委員・児童委員などの地域における多様な主体と連携を図り、見守りを呼びかけました。
- 事業者団体等と連携し、消費者被害防止を呼び掛ける啓発チラシを配布しました。

【成果・評価】

消費生活相談の確実な実施により、消費者被害の救済及び未然防止・拡大防止の取組を順調に行うことができました。また、成年後見制度の利用支援を行うとともに、地域における多様な主体と連携を図ることで、高齢者等の見守りを引き続き実施することができました。

【課題】

消費生活相談事業については、社会の変化とともに相談内容も複雑化・巧妙化しているため、さらなる消費生活相談員の対応能力向上が求められています。また、判断能力が不十分な高齢者等は悪質な事業者狙われやすい傾向にあるため、地域や事業者と連携・協働した見守りを引き続き着実に実施していく必要があります。

《基本施策Ⅲ 「消費者教育の推進と情報提供の充実」》

(別紙) 実施状況一覧 P25～P30

【主な取組】

9 ライフステージ別の消費生活教育の推進

- 小学校の家庭科、中学校の家庭分野において、金銭の計画的な使い方やものの適切な購入の仕方などを学習しました。
- 若年層に被害が多発している契約トラブルに関する注意喚起のチラシを市内の高校、大学、専門学校の学生窓口に配架しました。
- 大学が配信するメールを通じて、啓発情報や消費生活相談窓口の周知を行いました。
- 市内大学、専門学校の学生担当者と懇談会を開催し、消費者被害の実態や市の消費者行政について、情報提供と意見交換を行いました。
- 公民館から、家庭教育支援講座の動画配信を行いました。
- 大学のプロジェクト演習の一環として、若者の消費者被害を未然に防止するための取組について、意見を出し合い考える機会を設けました。
- 食に関する指導が充実するように、小・中学校食育担当者会を開催しました。
- 保育園において、ふるさとの生活技術指導士を講師とし、野菜を触ったり、匂いを楽しむなどの食育教室を開催しました。
- 持続可能な社会形成を目指すため、市オリジナルSDGsカードゲームを活用し、小・中学生向けに授業を行うなど、SDGsの周知・啓発を図りました。

10 消費者教育の担い手の育成

- 学校における消費者教育の支援のため、学校に出向き出前講座を実施しました。

11 消費生活情報の提供・啓発

- 市の広報誌・ホームページを活用した消費生活情報の発信をしました。
- 消費生活情報紙「すばいす」を年4回発行し、市内公共施設や地域包括支援センター等に配架しました
- 5月の消費者月間や9月の高齢者被害防止キャンペーン月間、1～3月の若者向け悪質商法被害防止キャンペーン月間にあわせて、「広報さがみはら」に記事を掲載し、広く消費生活情報を提供しました。
- メールマガジン及びLINE マガジンを活用して、トラブル事例の紹介及び注意喚起情報を配信しました。
- 公民館の高齢者学級等の一講座として、消費者教育講座を実施しました。
- SC 相模原と連携した食育に関するリーフレット及び動画を作成しました。

【成果・評価】

多様な媒体を活用して消費生活情報を引き続き提供したほか、地域への講師派遣事業などを着実に実施することができました。また、小中学校に加え、高等学校や大学においても、ライフステージに応じた消費者教育を実践し、自ら判断し選択できる自立した消費者の育成となる取組を進めることができました。

【課題】

社会の状況にあわせて新たな啓発手法を検討するとともに、様々な既存の媒体を活用した啓発を実施していくことが必要です。

また、学校や地域におけるライフステージ別の消費者教育を推進していくために、教育機関や地域等との連携について、より一層の取組を進めることが必要です。

《基本施策Ⅳ 「環境に配慮した消費行動の推進」》

(別紙) 実施状況一覧 P31～P32

【主な取組】

1.2 より良い消費行動の促進

- 4R推進運動として、小学校等への出前講座や中小事業者への個別訪問指導を実施しました。

※4R・・・ごみ減量のための、次の4つの行動の頭文字を合わせたもの。

- ・「Refuse」(リフューズ：発生抑制)・・・不要なものを買わない、使わない。
- ・「Reduce」(リデュース：排出抑制)・・・ごみを出さない。
- ・「Reuse」(リユース：再使用)・・・ものを繰り返し使う。
- ・「Recycle」(リサイクル：再生利用)・・・再び資源として使う。

- 廃棄される食品の削減に向け、フードドライブ活動の受付窓口を新設するなど、食品ロスに係る取組を行いました。

1.3 環境負荷の低減に向けた基盤の整備

- 再生可能エネルギーの利用促進を図るため、住宅に太陽光発電システムやエネファーム、リチウムイオン蓄電池などを設置した市民に対し、奨励金を交付しました。
- 次世代クリーンエネルギー自動車の普及を促進するため、燃料電池自動車や電気自動車等の購入者に対し、奨励金を交付しました。
- 学校給食で発生する食品残さを飼料化する取組を行いました。
- 家庭系ごみの更なる資源化に向け、有用金属リサイクルとして本庁舎等にリサイクルボックスを設置し、使用済小型家電を回収して認定事業者へ引き渡しました。

【成果・評価】

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、消費者や事業者への普及啓発活動の一部実施することができませんでした。しかし、フードドライブ活動の受付窓口新設や有用金属リサイクルの実施など、持続可能な社会の構築に向けた取組を行うことができました。

【課題】

市民の消費行動は、環境問題と密接に関わっていることから、ごみの減量をはじめとした環境負荷の低減及び省エネルギー等に配慮した暮らしへの転換を促す事業を今後も継続する必要があります。

これらの事業が活発になるには、市民の理解や参加していただくことが重要であり、そのための普及啓発活動を継続していくことが必要です。

≪基本施策Ⅴ 「消費者意見の反映と連携の強化」≫

(別紙) 実施状況一覧 P33～P34

【主な取組】

1.4 消費者意見の反映

- 消費生活相談の相談内容を分析し、消費生活メールマガジンや地域情報紙等で、悪質商法に係る注意喚起を行いました。

1.5 消費者団体等との連携及び育成

- さがみはら消費者の会の定例会への参加を中心に、情報交換や情報提供を通じて、団体の支援と育成に努めました。
- さがみはら消費者の会が主催する事業に対し、後援を行いました。

1.6 事業者団体等との連携

- 食中毒警報及びノロウイルス警戒情報発令時に、相模原食品衛生協会を通じて周知啓発を行いました。
- 食の安全・安心に係るリスクコミュニケーションを推進するため、食の安全・安心懇話会を開催し、情報提供及び意見交換を行いました。
- 栄養改善の普及・推進を図るため、食生活改善推進員を養成する講座を開催しました。また、食生活改善推進団体わかな会に対し、必要な知識・技術を習得するための研修会等を行いました。

【成果・評価】

消費生活相談の相談内容を分析することにより、消費者被害防止に向けた啓発情報を傾向に合わせて発信することができたほか、消費者団体や事業者団体等との連携をとおして消費者行政施策の充実を図ることができました。

【課題】

市民のニーズに合わせた事業や啓発活動を展開していく必要があります。

消費者団体及び事業者団体等との情報交換や事業の共催等について、今後さらに連携を進め、より一層効果的な事業を展開していくことが求められます。

2 事業実施状況

①消費生活基本計画の点検・評価について

消費生活に関する施策は広範な分野に及びものであり、第2次相模原市消費生活基本計画を着実に推進していくためには、これらの幅広い分野における取り組みを具体的に把握し、市が一体となって消費者行政についての意識を高めていく必要があります。

こうした点から、計画に記載された事業に対する各所管課・組織の実施状況を年度ごとに取りまとめるとともに、計画の効果的な推進を図るため点検し、評価を行うものです。

②令和2年度の事業実施結果について

「第2次相模原市消費生活基本計画」に掲載された具体的施策について推進する組織に対し、施策の対象となる事業の進捗及び達成状況を照会したところ、16の具体的施策に基づく74の取組内容について、97事業の報告がありました。

③各事業の評価方法について

(ア)「令和2年度進捗状況」

令和2年度の事業進捗状況について、次の6項目により評価しました。

評価	説明	令和2年度	令和元年度
実施済	計画していた事業をすべて実施した。	45	82
一部実施	計画していた事業のうち、一部を実施した。	23	0
実施不可	災害等により計画していた事業をすべて中止した。 ※今回の調査から追加	17	4
制度利用なし	制度は用意されているが、利用実績がなかった。	8	4
検討中	令和2年度は未実施だが、実施に向けた準備・検討を行った。	3	2
未着手	計画していた事業が未着手である。	0	0

※「実施不可」、「制度利用なし」及び「検討中」については、次の「事業の成果」では評価を行いません。

(イ)「事業の成果」

基本施策ごとに取り組む16項目の具体的施策について、施策担当課の視点に基づき、それぞれの事業の成果について評価しました。

評 価	説 明	令和2年度	令和元年度
A	<ul style="list-style-type: none"> ・新たな取組を開始した。 ・計画していた事業をすべて実施し、実績値が目標を達成した。 ・実施した事業のアンケート結果が高評価だったなど、高い効果を得られた。 	45	81
B	<ul style="list-style-type: none"> ・計画していた事業をすべて実施したが、実績が目標値に届かなかった。 ・計画していた事業が一部未実施となったが、実施した事業は効果があったなど、一定の効果を得られた。 	21	1
C	<ul style="list-style-type: none"> ・計画していた事業が未着手だった。 ・計画していた事業を一部実施したが、事業のアンケート結果が低評価だったなど、あまり効果がなかった。 	2	0
—	実施不可、制度利用なし、検討中につき評価せず。	28	6

(ウ)「今後の進め方」

事業の成果を踏まえて、今後の取り組みにおける方向性を示しました。

評 価	説 明	令和2年度	令和元年度
継 続	継続または内容を充実させるなどして今後も推進する。	89	84
一部見直し	事業内容等を一部見直して継続する。	7	4
全部見直し	効果が低いため、廃止も含めて現在の事業を根本的に見直す。	0	0
完 了	事業を完了した。	0	0

実施状況一覧

基本施策 I 消費者の安全の確保

別紙

施策1 商品・サービスの安全性の確保

No.	主な取組	事業名	取組状況	R2年度 実施状況	R2年度 成果	R1年度 実施状況	R1年度 成果	今後の課題・ 取組等	今後の 進め方	推進した 組織
1	進 害 情 報 ・ 危 険 情 報 の 収 集 及 び 推 供 の 推	消費者庁、独立行政法人国民生活センター、神奈川県及び各公的機関との連携により、商品及びサービスに関する危害情報・危険情報の収集及び公表を行い、危害の未然防止及び拡大防止を図ります。 中央区弥栄にある国民生活センター相模原事務所の商品テスト施設について、国民生活センターと連携して周知を行います。	○消費者庁及び国民生活センターから、商品及びサービスに関する危害情報・危険情報の収集を行い、情報の内容に応じてホームページの更新や関係課へ情報提供した。 ○神奈川県が主催する会議等へ出席し、商品及びサービスに関する危害情報・危険情報の収集や情報交換をした。 ○国民生活センターの商品テスト施設について、「消費者月間」や「夏休み子ども消費者教室」のイベントで施設見学を実施していたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、イベント自体が中止となった。 ○メールマガジンを利用した情報発信を実施した(送信回数52回)。	一部実施	B	実施済	A	○消費者庁等から発信される情報量が多いため、内容を精査し、情報提供の方法を検討する。 ○ホームページに掲載する情報は最新の状態に保つとともに、市民に分かりやすい掲載方法を検討する。 ○情報が効果的に届く方法を検討する。 ○商品テスト施設の周知方法を検討する。	継続	市民局
2	底 環 境 衛 生 営 業 施 設 等 の 監 視 指 導 の 徹	旅館業、興行場、公衆浴場、理容所、美容所及びクリーニング所の環境衛生営業6業種について、施設等の衛生管理の徹底を図り、自主管理を促進します。 また、スポーツクラブ等のプールや夏季に一般開放されている学校プール施設について管理運営の徹底を図り、危険防止を図るため、監視指導を実施します。	○理容所、美容所等環境衛生営業6業種について施設等の衛生管理の徹底を図り、自主管理を促進した。 ○スポーツクラブ等のプール施設について管理運営の徹底を図り、危険防止を図るため、監視指導を実施した。 ・環境衛生営業施設監視指導件数：①理容所(20件)②美容所(61件)③クリーニング所(4件)④旅館(4件)⑤興行場(0件)⑥公衆浴場(18件) ・プール施設監視指導件数：17件 ※業務継続計画に従い規模を縮小して実施した。	一部実施	B	実施済	A	○今後も環境衛生営業施設等について、法令に基づく監視指導を実施し、利用する市民の健康と安全の確保に努める。	継続	保健衛生部

施策2 食の安全性の確保

No.	主な取組	事業名	取組状況	R2年度 実施状況	R2年度 成果	R1年度 実施状況	R1年度 成果	今後の課題・ 取組等	今後の 進め方	推進した 組織
1	害 情 報 の 収 集 及 び 推 供 の 推 進	厚生労働省、農林水産省、神奈川県及び各公的機関との連携を図り、製品の自主回収情報の収集・公表を行います。 市内で食中毒が発生した際は、報道機関を通して情報提供を行います。	○厚生労働省、他自治体との連絡調整会議に参加し、情報を共有・収集した。 ○市内の食中毒発生件数：0件 ○食品等事業者が自ら着手した食品等の自主回収情報について、ホームページを通じて公表した。 ・公表件数：13件	実施済	A	実施済	A	○今後も食の安全確保の観点から継続して実施していく。 ○法改正による、食品等自主回収報告制度の創設に伴い、公表方法の検討を行う。	一部見直し	保健衛生部
		食品中に含まれる放射性物質検査結果の公表	○市内に流通する食品の放射性物質検査を実施し、その結果をホームページを通じて情報提供を行った。 ・食品検査数：20件 ・違反食品数：0件 ○厚生労働省、農林水産省又は各自治体で実施している食品中の放射性物質の検査結果について、随時情報を収集した。	実施済	A	実施済	A	○今後も、食品の抜き取り検査の一貫として、市内に流通する加工食品の検査を継続して実施していく。	継続	保健衛生部 経済部
		市内農産物の放射性物質検査	○食の安全・安心の確保と風評被害の防止を図るため、市内産農畜産物の放射性物質検査を実施し、検査結果についてはホームページを通じて情報提供を行う。 ※令和2年度より、休止	実施不可	—	実施済	A	○本市の放射能対策が平時時体制に移行したことなどから、検査の実施について見直しを図る。	一部見直し	経済部
2	食 品 衛 生 関 係 施 設 の 監 視 指 導 の 徹 底	食品関係営業施設等への立入検査や食品の抜き取り検査、監視指導を徹底するとともに、食品等事業者に対する食品衛生思想の普及啓発や自主的な衛生管理を促進します。	○食品衛生関係施設への立入検査を実施し、食品衛生法関係法令に基づく衛生指導を実施した。 ・対象施設数：16,580件 ・立入検査数：4,691件 ※業務継続計画に従い規模を縮小して実施した。	一部実施	B	実施済	A	○効果的な立入検査の実施に努める。 ○食品等事業者による自主的な衛生管理の促進を図る。	継続	保健衛生部
		市内に流通する食品の抜き取り検査及び衛生指導	○食品の検査及び違反食品等に対する指導等を行った。 ・食品検査数：305件 ・主な検査項目：①微生物②食品添加物③農薬④動物用医薬品 ・規格基準違反食品数：1件 ・食品表示基準違反食品数：3件 ・指針値超過食品数：0件 ※業務継続計画に従い規模を縮小して実施した。	一部実施	B	実施済	A	○効果的な検査の実施に努める。 ○食品等事業者による自主的な衛生管理の促進を図る。	継続	保健衛生部

			事業者への食品衛生思想の普及啓発	○食品衛生責任者等への衛生講習会を開催した。令和2年度は新たにインターネットにおいて講習会の動画を配信する形式で講習会を実施し、インターネット環境がない者には動画を録画したDVDを貸し出した。 ①会場集成型 ・開催回数:6回 ・参加者数:91人 ②インターネット視聴型・DVDレンタル型 ・参加者数:1,270人	実施済	A			○今後もインターネットを活用した普及啓発を促進する。 ○食品等事業者による自主的な衛生管理の促進を図る。	継続	保健衛生部
3	飲料水の確保の安全	飲料水の安全性を確認するため、市民からの依頼により、飲用井戸及び小規模水道等について水質検査を実施します。	市民からの依頼による飲料水の水質検査	○市民からの依頼による水質検査を実施した。 ・検査実施件数:59件	実施済	A	実施済	A	○対象者は限定されるものの、一定の効果があるため、今後も継続し実施していく。	継続	保健衛生部
4	食の安全・安心に係るリスクコミュニケーションの推進	食の安全・安心に係るリスクコミュニケーション(食品の安全の確保に関する情報及び意見の交換)を推進するため、消費者団体、食品等事業者、学識経験者及び市民で構成する「相模原市食の安全・安心懇話会」を開催し、情報提供及び意見交換を行います。	相模原市食の安全・安心懇話会	○食の安全・安心に係るリスクコミュニケーションを推進するため、消費者団体、食品等事業者、学識経験者、市民で構成する相模原市食の安全・安心懇話会を開催し、情報提供及び意見交換を実施した。 ・開催日:令和2年12月7日(月) ・構成員:10人 ・内容:①令和3年度相模原市食品衛生監視指導計画(案)の概要について②食中毒予防や食品衛生に関する各団体等の取組状況について ※令和2年7月:資料送付(平成31年度相模原市食品衛生監視指導結果)	一部実施	B	実施済	A	○今後も引き続き、消費者や食品等事業者等の意見交換や情報提供を行い、有意義なリスクコミュニケーションの推進を図る。	継続	保健衛生部

施策3 住まいと居住環境の安全性の確保

No.	主な取組	事業名	取組状況	R2年度 実施状況	R2年度 成果	R1年度 実施状況	R1年度 成果	今後の課題・ 取組等	今後の 進め方	推進した 組織	
1	建築物の耐震化の促進	地震時における建築物の安全に対する意識の向上を図り、災害に強い安全なまちづくりを推進するため、耐震化に関する相談を実施し、補助制度等の情報提供を行うとともに、補助制度の運用や普及啓発活動を行います。	既存建築物等総合防災対策事業	○職員による相談対応については窓口及び電話等で常時受け付け、補助制度等の情報を提供した。 ・相談件数:30件 ○市内の公民館等で専門家による巡回相談を実施した。 ・実施回数:13回(年間) ・相談件数:27件 ○旧耐震基準の既存マンション耐震巡回相談を実施した。 ・実施回数:1回	実施済	B	実施済	B	○今後も住まいの安全に関する相談を実施すると共に耐震に関する普及啓発、情報提供を行い、市民の安全の確保に努める。	継続	まちづくり推進部
2	健康的な居住環境の確保	シックハウス症候群や居住環境への不安についての相談を受け付け、情報の提供を行います。 また、大規模公共施設、大型店舗等の不特定多数の市民が利用する建築物について、建築物における衛生的環境の確保に関する法律(昭和45年法律第20号)に基づく空気環境や水質の維持管理等を指導します。	住居及び特定建築物における衛生的環境の確保	○シックハウス症候群や居住環境への不安についての相談を受け付け、情報提供を行った。 ・相談件数(シックハウス):4件 ○特定建築物の監視は、業務継続計画の実施により中止した。	一部実施	B	実施済	A	○今後もシックハウス症候群や居住環境への不安についての相談、情報提供を行う。また、必要に応じた室内空気環境の測定を行うとともに特定建築物の維持管理に関する監視指導を実施し、市民の健康と安全の確保に努める。	継続	保健衛生部
3	進ハザードマップによる情報提供の推進	土砂災害のおそれがある箇所や洪水による浸水想定区域、降雨による住宅浸水被害等の想定区域を記載したハザードマップについて、市ホームページ等を通じた情報提供を行い、避難場所や避難行動の周知を図ります。	ハザードマップによる情報提供	○作成済みの土砂災害ハザードマップ、洪水ハザードマップ、浸水(内水)ハザードマップを関係各課・機関の窓口での無料配布とホームページで情報提供を行った。 ○WEB上で避難場所や各種ハザードマップが住所検索できる「さがみはら防災マップ」を公開した。	実施済	A	実施済	A	○急傾斜地の崩壊に係る土砂災害特別警戒区域が追加指定されたことから、土砂災害ハザードマップを改定する。 ○土砂災害や洪水、降雨による住宅浸水被害等の災害から避難等に役立ててもらうため、ハザードマップなどを活用し、避難場所や避難行動の周知に努める。	継続	危機管理局

施策4 消費者取引の適正化

No.	主な取組	事業名	取組状況	R2年度 実施状況	R2年度 成果	R1年度 実施状況	R1年度 成果	今後の課題・ 取組等	今後の 進め方	推進した 組織
1	指不 導適 正な 取引 事業 者 に 対 す る	不適正な取引行為が疑われる事業者に対し調査を行い、不適正等の事実が確認された場合は消費生活条例に基づき、指導等の措置を行います。 また、神奈川県との連絡会議において、不適正な取引行為を行う事業者の情報交換や、今後の指導に関する検討を行います。	不適正な取引事業者に対する指導 ○神奈川県及び横浜市、川崎市との連絡会議を持ち、不適正な取引行為を行う事業者の情報交換や、今後の指導について検討した。 開催回数：4回	実施済	A	実施済	A	○市内の消費者被害について、情報収集するとともに、消費生活条例に抵触する取引行為を確認した場合は、迅速な指導を図る。 ○県及び県内政令市との情報交換を行い、合同指導等、効果的な指導について検討する。	継続	市民局
2	周費事 知業 生者 活者 に 等 に 係 る 対 取 組 の 消	事業者及び事業者団体に対し、消費生活条例に定められた責務の周知を図り、市民が安全で安心できる消費生活の確保に向けた措置を講じるよう求め、消費生活条例に則した取組を促進します。	○消費生活条例及び周知用リーフレットについて、ホームページに掲載した。	実施済	A	実施済	A	○条例の内容等について、効果的に周知する方法を引き続き検討する。	継続	市民局

施策5 表示の適正化

No.	主な取組	事業名	取組状況	R2年度 実施状況	R2年度 成果	R1年度 実施状況	R1年度 成果	今後の課題・ 取組等	今後の 進め方	推進した 組織
1	4 家 庭用 品 基 づ く 質 量 表 示 法 及 び 製 品 安 全	家庭用品品質表示法及び製品安全4法(消費生活用製品安全法、電気用品安全法、ガス事業法及び液化石油ガスの保安の確保及び取引の適正化に関する法律)に基づく立入検査	○製品安全に係る5つの法律に基づき、安全性の表示等について立入検査を実施していたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止した。	実施不可	—	実施済	A	○感染症対策を講じたうえで、立入検査を実施していく。	継続	市民局
2	ア(食 品 表 示 の 適 正 化 に 向 け た 取 組 の 推 進 共 有)	消費者や事業者からの食品表示に関する相談、立入調査等の情報を関係各課で共有し、適切な指導や効果的な啓発について協議します。	○お弁当販売を始める新規の方に対し、講習会を実施するなど、消費者又は事業者からの相談事例の共有、情報交換を行った。	実施済	A	実施済	A	○事業者が適正に表示できるよう連携するとともに、食品表示法違反事例に対処するため、今後も継続して情報共有を図っていく。	継続	市民局 保健衛生部 経済部
	食イ 品表 示レ の適 ギ― 正物 質等 の	食品等事業者への立入検査、抜き取り検査等の実施により、食品表示法(平成25年法律第70号)に基づくアレルギー物質等の適正表示を指導することで、飲食に起因する健康被害の発生防止を図ります。	○立入検査及び市内に流通する食品の抜き取り検査及び食品等事業者に対する講習会の実施等を通して適正表示の指導を実施した。 ・立入検査数：4,691件 ・食品検査数：305件 ・講習会参加者数：1,361人 ※業務継続計画に従い規模を縮小して実施した。	一部実施	B	実施済	A	○効果的な検査の実施に努める。 ○食品等事業者による自主的な衛生管理の促進を図る。	継続	保健衛生部
	告ウ 等栄 養成 分分 つ表 示及 び誇 大広	消費者が栄養に関する情報を正しく得て食品を選択できるように、事業者からの相談又は消費者からの通報に基づき、栄養成分表示の表示方法や表示内容、食品の広告内容に対する指導を行います。	○食品関連事業者等に対して、栄養成分表示の表示方法や表示内容、食品の広告内容に関する指導及び改善指導を実施した。 ・個別指導件数：28件	実施済	A	実施済	A	○関係課と連携して、適切な表示方法を周知し、指導していく。	継続	保健衛生部

工	栄養成分表示の普及啓発	生涯学習センターのまちかど講座や食生活改善推進団体との協力による講習会等の実施により、栄養成分表示の活用方法を普及することで、消費者が適切な食品選択を行い、健康づくりにつなげることができるようになります。また、保健機能食品(特定保健用食品・機能性表示食品等)についての情報提供を行います。	まちかど講座(栄養表示を活用しよう!!)	○市民に対して、加工食品に表示されているエネルギーや塩分などの栄養成分表示の読み方と、加工食品や外食メニューに表示されている栄養成分表示を活用した上手な食事の食べ方についての講話を行う。 ・実績:0件 ※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止	実施不可	—	実施済	A	○原則的に加工食品で義務表示となった栄養成分表示について、市民へ適切な活用方法の普及啓発を行う。	継続	保健衛生部
			地域における栄養成分表示普及啓発事業	○公民館等で、クイズや展示、資料配布により栄養成分表示についての知識の普及啓発を図る。 ・実績:6件 ※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため一部中止	一部実施	C			○市民が栄養成分表示を適切に活用していきことができるよう、イベントや公民館まつりなどの場で表示の見方について等の普及啓発を行う。	継続	保健衛生部
示	産地等(新規に係る)適正表	食品表示法に基づく原産地、原材料等の品質事項について、事業者からの表示に関する相談に対応し、また、不適正な表示について指導を行うことにより、消費者が合理的な食品選択ができるよう、食品表示の適正化を図ります。	産地等に係る適正表示の啓発・指導	○食品表示法に基づく品質事項について、事業者からの原産国等表示のルールに関する相談への対応、産地偽装の禁止等の情報提供を行った。	実施済	A			食品表示法に基づく原産地、原材料等の品質事項について、事業者からの表示に関する相談に対応し、食品表示の適正化を図る。	継続	経済部
3	健康づくり応援店の普及促進	栄養成分表示、ヘルシーメニューの提供、ヘルシーサービスの提供又は健康栄養情報の提供から1つ以上のサービスを実施する飲食店、惣菜店、コンビニエンスストア等を「健康づくり応援店」として登録し、消費者が外食等の際に自身の健康管理に配慮した食事ができるよう、栄養成分表示や栄養情報の提供等を支援します。	健康づくり応援店の普及促進	○市民が外食等の際に自身の健康管理に配慮した食事ができるよう、受動喫煙防止に配慮することを前提として飲食店等での栄養成分表示や、栄養に関する情報等の提供、食事に配慮した食事の提供、に取り組む飲食店を増やし食環境の整備を図った。 ・登録店舗数:66店舗	一部実施	C	実施済	A	○事業者及び市民への事業周知の機会が減少している。新規登録店舗の増加のため、効果的な周知方法について検討をしていく。	継続	保健衛生部

施策6 計量の適正化

No.	主な取組	事業名	取組状況	R2年度実施状況	R2年度成果	R1年度実施状況	R1年度成果	今後の課題・取組等	今後の進め方	推進した組織
1	特定適正計量器の定期検査の実施による推進	特定計量器の定期検査	○計量法に基づき、取引行為に使用される計量器について、指定定期検査機関(神奈川県計量協会)への委託によるはかりの定期検査を実施した。 ・検査対象:非自動はかり(質量計)、分銅及びおもり ・検査台数:1,193台	実施済	A	実施済	A	○計量法に定められた2年に1回の検査を受検することにより、事業者が使用するはかりの精度が確保されると共に、消費者に対する適正計量の維持が図られている。	継続	市民局
2	事業者への啓発指導の推進	事業者への立入検査	○計量器の適正な使用及び管理状況について確認するため、事業者への立入検査を行っているが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止とした。	実施不可	—	実施済	A	○感染症対策を講じたうえで、立入検査を実施していく。	継続	市民局
		商品の量目検査	○食肉類、魚介類、青果類、惣菜類を対象に、店頭で計量、包装されている商品についての量目検査を実施していたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止とした。 ○神奈川県及び県下の計量特定市8市との共同により、特定の同一品目を定め、試買による量目検査を実施した。 ・対象品目:即席めん ・検査個数:5種類(25個)	一部実施	B	実施済	A	○感染症対策を講じたうえで、立入検査を実施していく。	継続	市民局

3	適 正 な 計 量 管 理 の 推 進	適正な計量管理を推進するため、神奈川県及び県下の計量特定市と連携し、「正量取引強調月間」(年2回)及び「計量管理強調月間」(年1回)に、ポスター等による啓発や適正計量管理事業所に対する管理実態の立入調査等を実施します。 また、神奈川県計量協会等と連携し、計量思想の普及啓発を図る事業を実施します。	計量思想の普及・啓発	○神奈川県及び県下の計量特定市8市との共同により、計量に関する啓発活動を行った。 ○正量取引強調月間運動:商取引における計量の適正化と計量思想の啓発を図るため、ポスターを作成し配布した。 ・配布先:市内の公共施設及び製造事業者、小売事業者 ○計量管理強調月間運動:計量法に基づく適正な計量管理を促すため、「適正計量管理事業所」の指定を受けた事業所に対する啓発活動等を行った。 ○6~7月にかけて、該当事業所における計量管理状況の調査を行った。 ○11月の計量管理強調月間に、啓発ポスター及び標語のステッカーを作成し配布した。 ○計量管理の状況を確認するため、11月に1事業所(イオンフードサプライ)への立入調査を行った。	実施済	A	実施済	A	○製造及び流通業について適正計量の啓発を行い、計量に対する意識の向上を図っていく。 ○適正計量管理事業所については、良好な計量管理が行われているため、報告書の徴収と立入検査によって引き続き状況把握に努める。	継続	市民局
---	--	---	------------	--	-----	---	-----	---	--	----	-----

基本施策Ⅱ 消費者被害の未然防止と救済体制の強化
 施策7 消費生活相談の充実

No.	主な取組	事業名	取組状況	R2年度 実施状況	R2年度 成果	R1年度 実施状況	R1年度 成果	今後の課題・ 取組等	今後の 進め方	推進した 組織
1	消費生活相談の推進	消費生活相談事業	○市民から消費生活に関する相談や苦情を受け付け、解決のための助言やあっせんを行った。 ・相談場所 ①消費生活総合センター ②北消費生活センター ③南消費生活センター ・相談時間 ①9時～16時(第2、4金曜日は18時まで) ②③9時～正午、13時～16時 ※消費生活総合センターは年末年始を除き、土・日・祝日も受付。 ・相談件数 6,108件(苦情5,572件、問合せ536件)	実施済	A	実施済	A	○複雑化・多様化する相談に対応するため、更なる機能強化について検討する。	継続	市民局
2	消費生活センターの機能強化	町田市との相互相談	○平成12年に開催された首長懇談会により、平成13年度から町田市との相互相談を開始した。 ・相模原市民が町田市へ相談:20件 ・町田市民が相模原市へ相談:14件 ○消費生活相談会議を画面にて開催し、情報交換を行った。 ・実施日:令和3年2月26日～3月12日	実施済	A	実施済	A	○今後も町田市と情報交換をしながら、相互相談を実施していく必要がある。	継続	市民局
		消費生活センター強化事業	○新型コロナウイルス感染症対策として、市内に3か所ある消費生活センターを1か所に統合するとともに、電話回線の増設や相談業務の一部をリモート化し、非接触型の相談体制を整備した。 ○南区市民相談室及び中央区市民相談室の2か所から、オンライン面談が実施できる体制を整備した。	実施済	A			○相談者の利便性を考慮して、相談しやすい環境を検討します。	継続	市民局
3	消費生活センター及び相談事業の周知	消費生活センター及び相談事業の周知	○関東甲信越ブロック高齢者被害防止キャンペーン等の時期に、公共施設にてパネルを掲出した。 ○各区ガイドマップ等、他課で作成された啓発冊子等に相談窓口の情報を掲載した。 ○5月から2月まで、「タウンニュース」に消費生活センターの相談窓口等の広告を掲載した。 ○メールマガジン、相模原市公式LINEを用いて警戒情報等の発信とともにセンターの業務を周知した。 ○高齢者の消費者被害の防止に係る見守り及び消費生活総合センターの窓口を案内する30秒の動画を庁舎内やバス車内で放映した。 ○パルスシステム神奈川ゆめコープと連携して、市内の商品購入者の自宅を訪問する際に、啓発チラシを配布した。 ○啓発物品として、ウェットティッシュや見守り紙ファイルを作成し、地域包括支援センターや社会福祉協議会等の職員向けに配布した。 ○市内の郵便局に相談窓口の広告を掲載した現金封筒を配架した。 ○10月から3月まで、FMラジオ「エフエムさがみ」にて、高齢者の消費者被害の防止に係る見守り及び消費生活総合センターの窓口を案内した。	実施済	A	実施済	A	○より多くの市民へ周知するため、効果的な啓発活動について検討していく。	継続	市民局
4	多重債務相談の推進	多重債務相談	○弁護士と司法書士による多重債務相談を実施した。 ・弁護士相談:12件 ・司法書士相談:0件 ○神奈川県、神奈川県弁護士会、神奈川県司法書士会、日本司法支援センター神奈川地方事務所の主催する多重債務者相談強化キャンペーンの一環として、多重債務者特別相談会を実施した。 ・実施日:令和2年11月26日(木)、12月3日(木)	実施済	A	実施済	A	○多重債務者の問題解決について効果が得られており、関係団体との協力により、今後も事業を継続していく。 ○司法書士による相談が近年ないため、周知等の対策を検討する。	継続	市民局
5	関係機関との連携による多重債務問題への早期対応	関係機関との連携による多重債務問題への早期対応	○多重債務者対策の一環として、庁内の「自殺総合対策に係る庁内会議」に参加し、情報交換等を行った。(書面開催) ・実施日: 第一回:令和2年8月13日(木)～24日(月) 第二回:令和3年2月9日(木)～19日(金)	実施済	A	実施済	A	○各所管課との横断的な情報共有の仕組みづくりをさらに進めるとともに、消費生活相談員と情報を共有して有事の際に迅速な対応がとれる体制を維持する。	継続	市民局 地域包括ケア推進部

6	の 消 人 費 材 生 育 活 成 相 談 員	新たな消費者問題や高度な消費生活相談に対応していくため、消費生活相談員に対する専門的な研修機会を充実させるなど、消費生活相談員の資質の向上を図ります。	消費生活相談員支援事業	○国民生活センターや県等が主催する研修に消費生活相談員を派遣した。 ・国民生活センター 7回(延7人) ・県 7回(延26人) ・その他 4回(延9人)	実施済	A	実施済	A	○今後も相談対応を充実させるため、研修参加の機会を確保するため、	継続	市民局
---	--	---	-------------	---	-----	---	-----	---	----------------------------------	----	-----

施策8 消費者被害の未然防止と救済

No.	主な取組	事業名	取組状況	R2年度 実施状況	R2年度 成果	R1年度 実施状況	R1年度 成果	今後の課題・ 取組等	今後の 進め方	推進した 組織
1	成年後見制度の利用により、判断能力が十分でない高齢者や障害者等の消費者被害の未然防止及び救済を図るとともに、制度利用を促進するための取組を実施します。 また、養成研修を実施し、同じ市民としての感覚や立場で活動する市民後見人の育成及び活動支援を行います。	成年後見制度利用支援事業	○成年後見制度において、判断能力が十分でない方で身寄りがいない場合等に、市長が本人に代わって審判申立ての手続きを行った。 ・申立件数:50件(高齢者)、7件(障害者) ○後見人等に対する報酬の負担能力がない方に、その助成を行った。 ・助成件数:126件(高齢者)、43件(障害者)	実施済	A	実施済	A	○認知症高齢者の増加や養護者の高齢化など、後見人等の支援が必要な方も増加することが予想されるため、今後も継続して実施していく。	継続	地域包括ケア推進部
		市民後見人養成・支援事業	○認知症などにより成年後見制度の利用が必要となる高齢者の増加に対応するため、同じ市民としての目線や立場で活動ができる市民後見人の養成研修を実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止した。 ○市民後見人受任者等に対して、支援を行った。 ・市民後見人受任者数:16人(R3.3.末) ・フォローアップ研修:2回	一部実施	B	実施済	A	○成年後見制度の需要が高まることが予想されるため、コロナ禍においても市民後見人養成研修ができるよう工夫するとともに、家庭裁判所から選任された市民後見人や市民後見人候補者の支援を行っていく。	継続	地域包括ケア推進部
		さがみはら成年後見・あんしんセンターにおける事業	○日常生活において財産の保全又は管理が困難な障害者・高齢者等の権利を擁護し在宅生活の安定を図るため日常生活自立支援事業を実施した。 ・福祉サービス利用援助・日常的金銭管理サービス(利用人数:159人) ・書類等預かりサービス(利用人数:17人) ・権利擁護相談(相談件数:46件) ○後見人等として、被後見人等の財産管理や身上保護等の法定後見業務を行う法人後見事業を実施した。 ・法人後見事業(受任件数:24件(R3.3.末))	実施済	A	実施済	A	○判断能力が十分でない障害者や高齢者に対して、日常的な金銭管理や契約の締結などを支援することは権利擁護の観点から重要であるため、今後も継続して実施していく。	継続	地域包括ケア推進部
2	高齢者に対する見守りの推進	高齢者に対する見守り体制の推進	○最新の消費者被害の口等を掲載した消費生活情報紙「すばいす」を民生委員や老人クラブ等に配布した。 ○高齢者に対する消費者被害防止のための見守りに関するチラシを作成し、民生委員、老人クラブ等に配布した。 ○高齢者に関連する団体等の会議に出向き、契約トラブルに関する見守りを呼び掛けた。 ・呼び掛け先:民生委員、地域包括支援センター、老人クラブ、社会福祉協議会 ○パルシステム神奈川ゆめコープと連携して、市内の商品購入者の自宅を訪問する際に、啓発チラシを配布した。 ○市内の郵便局に相談窓口の広告を掲載した現金封筒を配架した。 ○10月から3月まで、FMラジオ「エフエムさがみ」にて、高齢者の消費者被害の防止に係る見守り及び消費生活総合センターの窓口を案内した。	実施済	A	実施済	A	○今後とも消費生活推進会議等で情報提供や意見交換を行うと共に、民生委員や老人クラブ、地域包括支援センター、介護保険事業所などの連携について検討する。	継続	市民局 地域包括ケア推進部
		地域包括支援センターにおける普及啓発事業	○チラシ等を作成し、注意喚起を行った。 ○いくつかの地域包括支援センターにおいて、年金支給日に最寄りの金融機関で振り込み詐欺に関するチラシ等を配布し、注意喚起を行った。 ○地域包括支援センターが実施した「地域ケア会議」において、自治会、民生委員らと、地域の消費者被害の早期発見・未然防止に関する連携方法を検討した。	実施済	A	実施済	A	○今後も、さまざまな機会をとらえ、情報共有や注意喚起を図っていく。	継続	地域包括ケア推進部

3	障害者等に対する見守りの推進	民生委員・児童委員、自治会、事業者団体などの地域における多様な主体と連携を図り、各種事業を通して障害者等に対する消費者被害の未然防止及び早期発見と救済を図ります。	障害者等に対する見守り体制の推進	○見守りに関する消費生活啓発グッズ(コットンバッグ、ウェットティッシュ、紙ファイル)を作成、配布した。 ○地域包括支援センターが実施した「地域ケア会議」において、自治会、民生委員らと、地域の消費者被害の早期発見・未然防止に関する連携方法を検討した。 ○5月から2月にかけて、市内全域で新聞に折り込まれる「タウンニュース」に見守りに関する広告を掲載した。 ○各戸に配布される地域情報誌「ぼど」の4月号、9月号に地域での見守りに関する広告を掲載した。 ○バルシステム神奈川ゆめコープと連携して、市内の商品購入者の自宅を訪問する際に、啓発チラシを配布した。 ○市内の郵便局に相談窓口の広告を掲載した現金封筒を配架した。 ○10月から3月まで、FMラジオ「エフェムさがみ」にて、高齢者の消費者被害の防止に係る見守り及び消費生活総合センターの窓口を案内した。	実施済	A	実施済	A	○障害者の支援団体や養護学校等に「出前講座」の利用を呼び掛けている。	継続	市民局 地域包括ケア推進部
4	規事業者団体等と連携した見守りの推進【新】	地域に密着した事業者団体等と連携し、消費者被害の未然防止及び早期発見と救済を目的とした高齢者、障害者等の見守りを推進します。	事業者団体等と連携した見守りの推進	○バルシステム神奈川ゆめコープと連携して、商品購入者の自宅を訪問する際に、啓発チラシを配布した。 日時：令和2年10月19日～23日 配布数：11,000枚 ○民生委員・児童委員協議会、老人クラブ連合会、地域包括支援センター、社会福祉協議会などの会議に出席し、トラブル事例の紹介や出前講座の案内を実施した。 ○「橋本七夕まつり」や「星が丘ふれあいフェスティバル」などの地域のイベントで啓発グッズを配布していたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止となった。 ○地域包括支援センターが実施した「地域ケア会議」において、自治会、民生委員等と地域の消費者被害の早期発見・未然防止に関する連携方法を検討した。	一部実施	B			○事業者団体等との連携について、効果的な方法を検討する。	継続	市民局
5	携県内自治体との連携	神奈川県や県内市町村の消費生活相談担当者と相談事例を共有し、消費生活相談の解決に向けた情報交換や相談処理手法の研究を行います。	県内自治体との情報交換	○県主催の消費生活相談担当者会議において、相談事例の共有、情報交換を行った。	実施済	A	実施済	A	○今後も継続して情報交換等を実施していく。	継続	市民局
6	被害救済部会の運営	相模原市消費生活審議会※における被害救済部会を通して、解決が困難な消費生活相談に対してあつせん又は調停を行います。 付託案件がない場合は、消費生活相談の分析及び検討を行います。	被害救済部会の運営	○消費生活審議会の設置に伴い、平成22年度から被害救済部会を設置している。 ※これまで対象となる事案はなし。	制度利用なし	—	制度利用なし	—	○被害救済部会によるあつせんを行う場合は、公益性や被害拡大の防止といった観点も考慮されるため、対象となる事例についての研究を行っていく。	継続	市民局
7	用貸消費者被害の救済	消費者被害に遭った人が訴訟を行う際に、所定の要件に該当し、かつ、訴訟費用に困窮する場合は訴訟費用の一部について貸付を行います。	消費者被害救済貸付金制度の実施	○相模原市消費生活条例の施行に伴い、平成22年度から貸付制度を実施している。 ・貸付予算額：50,000円(年1件程度想定) ・実績：0件 ※制度の開始以来、貸付の実例なし。	制度利用なし	—	制度利用なし	—	○貸付の決定については、公益性や被害拡大の防止といった観点も考慮されるため、対象となる事例についての研究を行っていく。	継続	市民局
8	の消費支援者団体訴訟へ	事業者の不当な勧誘行為や契約条項の差止めを求めため、適格消費者団体※等から申し出を受けた場合は、必要と認められる範囲で情報を提供します。	消費者団体訴訟への支援	○消費者団体訴訟に必要な情報等の照会について、適格消費者団体からの申出により対応する。 ・実績：0件 ※これまで対象となる申出はなし。	制度利用なし	—	制度利用なし	—	○適格消費者団体及びこれらによる訴訟については、将来に向けて件数が増加していくと見込まれるため、引き続き協力体制を維持していく。	継続	市民局
9	進警察との連携の推	主に高齢者を狙った悪質商法や特殊詐欺などの被害が増加していることから、情報共有や啓発事業を通して警察と連携した消費者被害防止対策を検討します。	警察との連携	○県警本部及び市内4署と調整して会議を開催し、相談事例や近況報告を行い情報を共有する。 ※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止	実施不可	—	実施済	A	○加害者の手口も複雑化・巧妙化しており、警察との情報共有や連携の必要性が増していることから、早期に体制を構築し継続して実施していく。	継続	市民局

基本施策Ⅲ 消費者教育の推進と情報提供の充実
 施策9 ライフステージ別の消費者教育の推進

No.	主な取組	事業名	取組状況	R2年度 実施状況	R2年度 成果	R1年度 実施状況	R1年度 成果	今後の課題・ 取組等	今後の 進め方	推進した 組織
1	小中学生に対する消費者教育の推進	小・中学校における消費者教育の実施	○小学校の家庭科、中学校の家庭分野では、領域「C 消費生活・環境」において、金銭の計画的な使い方やものの適切な購入の仕方などの授業を実施した。 ○社会科では、身近な消費活動からはじまり、お金やものの流通や価格の決まりかたといった市場経済を学び、しくみを理解した。	実施済	A	実施済	A	○児童生徒が主体的に生きる消費者に育つための授業の開発とそのため研究に取り組む必要がある。	継続	学校教育部
		小中学生向けの消費生活事業の実施	○小・中学校において消費生活相談員による出前講座を実施する。 ○小学校高学年生を対象に、夏休み子ども消費者教室を実施する。 ※いずれの事業も新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止した。	実施不可	—	実施済	A	○実施校を増加させるための周知方法を検討する。 ○小学生の高学年～中学生は、お小遣いを主体的に使い始めるなど、消費者として基礎的な知識を学ぶ重要な時期だと認識している。 ○保護者が同伴できるため、保護者の視点で意見を収集し、内容の向上につなげていく。	継続	市民局
2	高消費者学校・専修学校・大学における消費者教育の推進	高等学校・専門学校・大学における消費者教育の実施及び消費者トラブルに関する情報提供	○若年層に被害が多発している契約トラブルに関する注意喚起のチラシを市内の高校、大学、専門学校の学生窓口に配架した。(35校) ○高校において消費生活相談員による出前講座を実施した。 実施回数 3回(2校) ○新入生ガイダンスにおいて、大学等からの依頼により、啓発冊子(契約のきりふだ若者編)を配布した。 実績 1件(1,000部) ○大学が配信する「お知らせメール」を通じて、啓発情報や消費生活相談窓口の周知を行った。 実績 2校(配信数:約4,100名)	実施済	A	実施済	A	○パンフレット等配布資料の作成による注意喚起だけでなく、消費生活相談員による出前講座の実施等により、消費者教育の機会の増加に努める必要がある。 ○対象者が利用するSNS媒体を分析し、情報提供を効果的に届ける。	継続	市民局
3	止大の学た等めとの連携費者推進害防	大学及び専門学校の学生担当者や消費生活センター職員及び消費生活相談員による懇談会を実施し、若年者の消費者被害の実態を情報提供し、周知・啓発に関する意見交換等を行います。	○市内大学、専門学校の学生担当者と消費生活センター職員による懇談会を実施し、消費者被害の実態や市の消費者行政についての情報提供と意見交換を行った。 ・日時:令和3年3月19日(金) ・会場:北消費生活センター会議室 ・参加大学:青山学院大学、麻布大学、和泉短期大学、北里大学、相模女子大学、女子美術大学、相模原看護専門学校、相模原調理師専門学校	実施済	A	実施済	A	○より多くの大学等に参加していただけるよう、開催日程の調整に配慮すると共に、各大学等への消費者啓発等についても依頼していく必要がある。	継続	市民局
4	費新者社教会育人の等推へ進の消	新社会人等を対象として、悪質商法についての情報提供を行うとともに、グローバル経済社会における消費者の役割の自覚を促し、自立した消費者を育成する消費者教育を実施します。	○事業所からの依頼により、新人社員等に対する契約トラブルの啓発講座を実施する。 ・実績:0件	制度利用 なし	—	制度利用 なし	—	○利用実績がなかったことから、市内事業者に対して契約トラブルの発生状況や出前講座に関する情報提供に努める。	継続	市民局

5	成年向け消費者講座の推進	生涯学習センター、公民館等で実施する各種のプログラムにおいて、消費者問題、悪質商法、食の問題等、消費生活に関する多様な講座を実施します。	公民館における各種学級等	公民館等における各種学級等の一講座として、消費者講座を実施した。 ○星が丘公民館 ・家庭教育支援講座「③こどものスマホ 親が持つべき知識 ～スマホとの上手な付き合い方～前編」 開催日:令和3年3月23日(火) ※不特定多数を対象とした動画配信等の事業 ・家庭教育支援講座「④こどものスマホ 親が持つべき知識 ～スマホとの上手な付き合い方～後編」 開催日:令和3年3月30日(火) ※不特定多数を対象とした動画配信等の事業 ・高齢者学級「⑤キャッシュレスについて、カード、スマホ決済」 ※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止 ○光が丘公民館 ・生活応援講座「キャッシュレス講座 第2弾」 ※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止 ○陽光台公民館 ・スマホ講座 ※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止	一部実施	B	実施済	A	○市民の学習ニーズに対応した内容で、今後も消費生活に関する各種学級・講座等を開催していく。	継続	生涯学習部
			まちかど講座	消費生活に関するまちかど講座 ・0講座(受講者数:0人)	制度利用なし	—	実施済	A	○まちかど講座以外にも、国民生活センターとの共催講座を継続して開催できるよう、引き続き調整していく。	継続	生涯学習部
6	地域における消費者教育の充実	地域における消費者教育の推進のために、地域団体が開催する「消費生活講座」に消費生活相談員を派遣し出前講座を行います。	消費生活出前講座	○地域団体が開催する「消費生活講座」に消費生活相談員を講師として派遣した。 ・派遣回数:3回 ・参加者数:834人(総計) ・講座内容:「あなたを狙う悪質商法」等	実施済	B	実施済	A	○公民館の高齢者学級や地区老人会との連携により、高齢者を中心に啓発活動を実施する。また、見守りの視点で高齢者等に接する機会が多い事業者に対するPRIに努め、従事する職員等への講座も実施する。 ○若年層への消費者教育について、教員が集まる部会などを通じて情報提供を行い、講座の実施につなげる。また、PTA等を通じて保護者向けの講座を実施する。	継続	市民局
7	消費生活推進学習	市の主催、共催等による市民向けの消費生活学習事業を行います。	消費生活学習事業	○消費者月間特別事業 ○夏休み子ども消費者教室 ○みんなの消費生活展 ※新型コロナウイルス感染症拡大防止につき中止とした	実施不可	—	実施済	A	○講座の内容等により市民の要望を反映させながら、今後も実用的な消費生活講座を開催する。	継続	市民局
8	の広域連携による消費者教育	本市周辺にある大学や国民生活センター、消費者団体等の関係機関との協働により、市域を超えた広域連携による消費者教育事業を行います。	広域連携による消費者教育の実施	○青山学院大学のプロジェクト演習の一環として、若者の消費者被害を未然に防止するための効果的な情報発信や被害に遭った時の救済手段について、学生同士が意見を出し合い考える機会を設けた。 ○成年年齢引下げを見据え、市内大学等の学生担当者や行政が集い、消費者被害の実態や消費者行政などについて意見交換をする懇談会を開催した。	実施済	A	実施済	A	○今後、近隣自治体や独立行政法人国民生活センターとのタイアップにより、効果的に消費者教育を実施していくと共に、市内外へ、本市の消費者教育への取組を発信していく必要がある。	継続	市民局
9	食育の推進	農業関係者や、食生活改善推進団体等との連携により、収穫体験や地場産物の視点を含んだ食育講座や野菜の普及啓発を実施し、食の選び方や食事のとり方等についての知識の普及を図ります。	地域における食育講座	※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、例年行っていた地域における食育講座は中止した。 代替措置として親子を対象とした食育に関するレシピ集を作成した 3,000部	一部実施	B	実施済	A	○安全に講座を運営するため、実施方法を検討する必要がある。	一部見直し	保健衛生部

			栄養教諭を中核とした食育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○相模原市小・中学校食育担当者会 <ul style="list-style-type: none"> ・開催日:令和2年6月4日(書面開催) ・内容:①学校における食に関する指導の推進について②栄養教諭による食育個別支援について③第3次相模原市食育推進計画の周知④学校給食について④食育事業の紹介 ○食育推進プロジェクト会議 <ul style="list-style-type: none"> ・開催数:6回 ・内容:①ネットワークグループ協議会における食育推進内容の協議②食育教材作成 ○食育ネットワークグループ協議会 <ul style="list-style-type: none"> ・開催数:1回 ・内容:各学校の情報交換及び小中連携の取組 	実施済	A	実施済	A	○食に関する指導が更に充実するよう、ネットワークグループの活用や栄養教諭が作成した教材の活用について引き続き周知していく。	継続	学校教育部
			ふるさとの生活技術指導士による食育事業	<ul style="list-style-type: none"> ○保育園において、ふるさとの生活技術指導士を講師とし、野菜の話や収穫したての野菜を触ったり匂いを楽しむなどの感覚を活用した食育教室を実施した。 ・対象:主に3~5歳児 ・実績:市内保育園、幼稚園4園(4回実施)感染症拡大防止のため13回予定していたが、講師、園側の都合により9回中止。参加者が交差しないよう配慮し実施。 	一部実施	B	実施済	A	○本物の野菜を見聞きするため、実施後、保育園での調理や給食に入っている野菜への興味が向上している。また、当日の野菜の園内での展示と事業の様子の掲示により、保護者への食育を行う。	継続	こども若者未来局 経済部
10	食品衛生思想の普及啓発	関係団体等と連携して食中毒予防に係る啓発を実施し、被害の発生及び拡大防止を図ります。	食品衛生思想の普及啓発	<ul style="list-style-type: none"> ○路線バス車内に食中毒予防に係るモニター広告を掲載した。 ・実施期間:①令和2年7月~9月、②令和2年11月~令和3年1月 ・内容:①食肉による食中毒予防②ノロウイルスによる食中毒予防 ○要望に応じて消費者を対象とした食品衛生講習会を開催し、食中毒予防等の正しい情報の提供と知識の普及啓発を図った。 ・開催回数:4回 ・参加者数:59人 ○家庭でできる食中毒予防のポイントについて、広報さがみはら、ホームページ、ラジオ(FMさがみ)等を用いて啓発した。 ○市役所本庁舎食堂への普及啓発ポップ設置 ○リメイクレシビリーフレットの配布 ○夏休みエコクッキング講座(中止) ○食品ロス削減講演会(中止) ○フードドライブ活動の実施:1月から新設窓口(津久井クリーンセンター)追加(1,086*%) ○飲食店キャンペーン(中止) 	実施済	A	実施済	A	○効果的な普及啓発ツールとして、今後も継続して実施していく。	継続	保健衛生部
11	普及品啓発	まだ食べられるのに捨てられる食品(食品ロス)の削減に向け、適量の購入、食材の使いきりなど消費者に対する普及啓発を推進します。	食品ロス削減の啓発	<ul style="list-style-type: none"> ○市役所本庁舎食堂への普及啓発ポップ設置 ○リメイクレシビリーフレットの配布 ○夏休みエコクッキング講座(中止) ○食品ロス削減講演会(中止) ○フードドライブ活動の実施:1月から新設窓口(津久井クリーンセンター)追加(1,086*%) ○飲食店キャンペーン(中止) 	一部実施	A	実施済	A	○食品ロスを出さない消費生活への転換を促すため、イベントでの物品配布や各種講座の実施を行うことにより、認知度を高め、行動へ結びつけていく。	継続	資源循環部
12	環境教育(エコライフ)	消費者が環境にやさしい生活(エコライフ)について考える機会を提供し、環境負荷の低減、省エネルギー等に配慮した暮らしへの転換を促進します。	環境教育(エコライフ)の促進	<ul style="list-style-type: none"> ○市民等の環境に係る関心を高め、環境の保全及び創造に係る活動を促進するため、地域で活動する市民、事業者、大学及び行政の協働による「さがみはら環境まつり」を開催を予定したが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止となった。 【第16回】 ・開催予定日:令和2年6月13日(日) ※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止 	実施不可	—	実施済	A	○市民の消費行動は、環境問題と密接につながっていることから、環境負荷の低減、省エネルギー等に配慮した暮らしへの転換を考える場としても今後も継続して開催できるよう配慮する。	継続	環境共生部
13	発持(新規範)な社会形成に関する周知・啓発	SDGs(持続可能な開発目標)やエンカル(倫理的)消費など、持続可能な社会形成に向けた理念や必要性、具体的な行動事例などについて、周知・啓発を行います。	持続可能な社会形成に関する周知・啓発	<ul style="list-style-type: none"> ○生涯学習センターのまちかど講座など、市民向けにSDGs講座を開催した。 ○市オリジナルSDGsカードゲームを活用し、持続可能な社会形成について小中学生向け授業を実施した。 ○SDGsに積極的に取り組んでいる企業や団体などを登録する「さがみはらSDGsパートナー制度」を開始し、持続可能な社会の達成や地域課題の解決に向けた取組を推進した。(令和3年3月末時点登録団体数:279団体) ○SDGs特設サイト・SNSによりSDGsの普及啓発や情報発信を行った。 ○市役所本庁舎ロビーのSDGs展示や、広報さがみはらへの記事掲載により、市民へSDGsの周知を図った。 	実施済	A			○今後も各取り組みによる普及啓発活動を継続して行う。また、イベントやワークショップについても、新しい生活様式に対応した実施方法の検討を行う。	継続	総合政策部
14	啓計発量思想の普及	日々の生活に密接に関わっている計量について、神奈川県及び県下の計量特定市と連携した啓発ポスターの配布のほか、神奈川県計量協会等と連携し、イベント等において普及啓発活動を行います。	計量思想の普及・啓発【再掲】								

15	教育の推進（新規）に関する	金融、経済、国際理解等、消費者教育の範囲は多岐にわたるため、専門団体等の提供する学習プログラムを積極的に活用し、消費生活講座の多様化と充実を図るとともに、それぞれのプログラムにおける利点を研究し、消費者教育及び啓発に役立てます。	その他消費生活に関連する教育の推進	○相模女子大学の学生と協力して、小学生向け消費者教育の教材として文部科学省が提供する「かいものすごろく」を活用した教育プログラムを作成し、「夏休み子ども消費者教室」で実施する。 ※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止	実施不可	—			○子供向けのイベントを実施するため、どのような方法が適切か検討する。 ○相模女子大学以外の専門団体等のプログラム活用も検討する。	継続	市民局
----	---------------	--	-------------------	--	------	---	--	--	---	----	-----

施策10 消費者教育の担い手の育成

No.	主な取組	事業名	取組状況	R2年度実施状況	R2年度成果	R1年度実施状況	R1年度成果	今後の課題・取組等	今後の進め方	推進した組織	
1	担い手育成（新規）に関する	教職員を対象とした消費者教育に係る国民生活センター等が作成した研修プログラム等を活用し、教職員の指導力向上を図ります。	学校における消費者教育の担い手育成	○教育センターが主催する、相模原市教育研究発表会において、発表者として参加することで、消費者教育の大切さを伝える。 ※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止	実施不可	—		○消費者教育の大切さを伝える機会を探索する。	継続	市民局 学校教育部	
2	家庭での推進（新規）に関する	おこづかいの使い方やゲーム等の利用のルール決めなど、家庭が消費者教育の主体となる場面は多いため、保護者が消費生活に関する知識を習得する機会を提供し、家庭での消費者教育を推進します。	家庭での消費者教育の推進	○PTA等において出前講座を実施し、消費生活に関する基本的知識を習得する機会を提供して、家庭での消費者教育を推進する。	制度利用なし	—		○学校で行われる保護者会等の機会に出前講座を活用してもらおう呼び掛けしていく。	継続	市民局	
3	地域での担い手育成（新規）に関する	地域における多様な主体と連携し、消費者教育を受けた人自身が、消費者教育の担い手となって周囲の人に伝える仕組みを検討し、横断的な展開を図ります。	地域における消費者教育の担い手育成	○消費生活の出前講座を受講した人が、新たに消費生活サポーターになり、その地域の消費者教育の担い手となって周囲の人に啓発を行う仕組みを検討する。	検討中	—		○自主的に活動してもらおうため、講座内容や仕組みづくりについて検討する。	継続	市民局	
4	学校教育機関への支援（新規）に関する	学校における消費者教育の実施に当たり、消費生活相談員の派遣やパンフレット・DVD等の教材の提供など、消費者教育の推進に向けた支援を行います。	学校における消費者教育の支援	○学校に出向き、出前講座を実施しました。 申請団体：高等学校2校 参加人数：834人	実施済	A	実施済	A	○学校行事の都合上、同じような時期に依頼が来やすいため、調整作業が必要になる。 ○受講者側である生徒に興味を持ってもらう必要がある。	継続	市民局
5	多様な担い手強化（新規）に関する	消費者教育は多様な人材が担い手となることから、消費生活センターへの消費者教育コーディネーター※の配置などにより、的確な人材と地域や学校現場等をつなぎ、各ライフステージに応じた消費者教育のコーディネート機能を強化することで、さらなる消費者教育を推進します。	消費者教育コーディネーターの配置	○今後の消費者教育事業をさらに強化するため、消費者教育コーディネーターの配置を目指す。	検討中	—		○限られた予算の中で、いかんして有用な人材を確保するか検討する。	継続	市民局	

施策11 消費生活情報の提供・啓発

No.	主な取組	事業名	取組状況	R2年度 実施状況	R2年度 成果	R1年度 実施状況	R1年度 成果	今後の課題・ 取組等	今後の 進め方	推進した 組織
1	活市情の報の紙充実・ホームページにおける消費生	市の広報紙・ホームページを活用した消費生活情報の発信	○市ホームページ内の「消費生活」のページについて、随時掲載情報を更新した。 ○5月1日号に消費者月間の周知と新型コロナウイルス感染症に便乗した悪質商法の注意喚起を行った。 ○7月1日号に「保険金」を利用した住宅修理トラブルの増加に伴い、注意喚起を行った。 ○9月1日号に高齢者被害防止キャンペーン月間の周知とともに、悪質商法への注意喚起及び高齢者の見守りを呼びかけた。 ○1月1日号に1～3月の若者向け消費者被害防止月間の周知とともに、新成人の契約トラブルについて注意喚起を行った。 ○その他、消費生活講座等の開催案内等を随時掲載した。	実施済	A	実施済	A	○情報の更新を適宜行うと共に、今後も見やすさの向上に努めていく。 ○年1回の特集記事掲載の申請を継続しながら、消費生活情報の記事掲載回数を増やすよう努めていく。	継続	市民局
2	布消費生活情報紙の作成及び配	消費生活情報紙「すばいす」の作成及び配布	○消費生活情報を配信する機関紙「すばいす」を、年4回発行した。 ・様式：二つ折フルカラー4ページ ・発行部数：各2,500部（計10,000部） ・配布先：消費者団体、市内公共施設及び公共機関、地域包括支援センター等	実施済	A	実施済	A	○「すばいす」の認知度を高めるため、街頭キャンペーン等様々な機会を捉え配布を行い啓発に努める。また、市民に対する消費生活に関する情報提供紙として、掲載内容の充実に努めるとともに、より効果的な配布先についても検討する。	継続	市民局
3	用メールマガジン等を利用した周知・啓発	メールマガジン等を利用した周知・啓発	○メールマガジン及びLINEマガジンを用いて、消費者被害防止に係る注意喚起情報等を発信した。 配信数 52回 登録者数 メールマガジン 295名 LINEマガジン 3,218名	実施済	A	実施済	A	○マガジンの周知・啓発を拡充し、登録者数の増加に努める。 ○高齢者でも容易に登録できるような登録方法を検討する。	継続	市民局
4	周知関係機関等と連携した	高齢者トラブル事例等の情報提供及び見守り実施の呼びかけ	○民生委員・児童委員協議会、老人クラブ連合会、地域包括支援センター、社会福祉協議会など、各団体の会議に出席し、トラブル事例の紹介や出前講座の案内を行った。	実施済	A			○引き続き周知啓発を行える媒体について検討を行う。	継続	市民局
5	イベントの実施を通じた周知・啓発	「みんなの消費生活展」、「農業まつり」、「食育フェア」、「さがみはら環境まつり」等の市民が積極的に参加できるイベントを通して幅広い対象へ啓発を行います。	○新型コロナウイルス感染症拡大防止につき中止とした	実施不可	—	実施済	A	○消費者団体や大学、企業等との連携の場としても機能しており、今後も取組を継続できるように検討する。	継続	市民局
		相模原市農業まつり	農業まつりについては、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止した。農畜産物共進会については新型コロナウイルス感染症対策を徹底した上で実施した。	一部実施	B	実施済	A	○農業まつりについては、新型コロナウイルスの感染状況等見ながら実行委員会において、開催の可否について検討する。農畜産物共進会については今後も新型コロナウイルス感染症対策を徹底した上で実施していく。	継続	経済部
		食育イベント	※予定していた食育講演会は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止 代替措置として、市食育推進計画の推進のためSC相模原と連携した食育に関するリーフレット及び動画を作成した ・動画配信回数：6回 ・動画閲覧回数：1,364回 ・リーフレットの作成：3,000部	一部実施	B	実施済	A	○幅広い市民へ食育の推進を行うため、イベントの実施方法やSNS活用の検討が必要である。	一部見直し	保健衛生部

			さがみはら環境まつり	○市民等の環境に係る関心を高め、環境の保全及び創造に係る活動を促進するため、地域で活動する市民、事業者、大学及び行政の協働による「さがみはら環境まつり」を開催を予定したが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止となった。 【第16回】 ・開催予定日：令和2年6月13日（日） ※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止	実施不可	—	実施済	A	○市民の消費行動は、環境問題と密接につながっていることから、環境負荷の低減、省エネルギー等に配慮した暮らしへの転換を考える場としても今後も継続して開催できるよう配慮する。	継続	環境共生部
6	よ街頭消費キャンペーンに	消費者問題や悪質商法に関する啓発のため、街頭で啓発チラシ等の配布を行うキャンペーンを実施します。	消費者被害防止啓発キャンペーン	○新型コロナウイルス感染症拡大防止につき中止とした	実施不可	—	実施済	A	○市民に対する消費者問題や悪質商法等への啓発する機会として、関係機関等と連携しながら今後も実施していく。	継続	市民局

基本施策Ⅳ 環境に配慮した消費行動の促進
 施策12 より良い消費行動の促進

No.	主な取組	事業名	取組状況	R2年度 実施状況	R2年度 成果	R1年度 実施状況	R1年度 成果	今後の課題・ 取組等	今後の 進め方	推進した 組織
1	掲エ コ ラ イ フ の 促 進 【再 掲】	消費者が環境にやさしい生活(エコライフ)について考える機会を提供し、環境負荷の低減、省エネルギー等に配慮した暮らしへの転換を促進します。	環境教育(エコライフ)の促進【再掲】 ○市民等の環境に係る関心を高め、環境の保全及び創造に係る活動を促進するため、地域で活動する市民、事業者、大学及び行政の協働による「さがみはら環境まつり」を開催を予定したが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止となった。 【第16回】 ・開催予定日：令和2年6月13日(日) ※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止	実施不可	—	実施済	A	○市民の消費行動は、環境問題と密接につながっていることから、環境負荷の低減、省エネルギー等に配慮した暮らしへの転換を考える場としても今後も継続して開催できるよう配慮する。	継続	環境共生部
2	4 R に 関 する 情 報 発 信	多くの市民が4R(発生抑制・排出抑制・再利用・再生利用)に関する理解を深め、日常生活でごみの減量化・資源化に取り組んでいくために、様々な機会を捉えて4Rの大切さを発信します。	循環型社会普及啓発事業及び事業系ごみ適正排出推進事業 ○各種イベント等における啓発活動(中止) ○スーパーキャンペーン(中止) ○図書館キャンペーン(中止) ○大学キャンペーン(中止) ○駅前キャンペーン(中止) ○リサイクル体験教室(中止) ○ごみ・資源出張相談会(中止) ○出前講座：62回(5,357人) ○ごみ・資源集積場所排出指導等(中止) ○中小事業者への戸別訪問指導(1,682者) ※(中止)については、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止としたもの	一部実施	B	実施済	A	○資源循環型社会の形成に向けて、4R推進に対する市民意識の醸成を図るため、情報提供や啓発活動を行うとともに、ごみの減量化・資源化を行う市民等を支援する。また、事業者に対しては、啓発用冊子を配布し、事業系ごみの適正排出等の促進を行う。	継続	資源循環部
3	普 食 品 ロ ス 【再 掲 に 係 る】	まだ食べられるのに捨てられる食品、いわゆる食品ロスの削減に向け、適正量の購入、食材の使いきりなど消費者に対する普及啓発を推進します。	食品ロス削減の啓発【再掲】							

施策13 環境負荷の低減に向けた基盤の整備

No.	主な取組	事業名	取組状況	R2年度 実施状況	R2年度 成果	R1年度 実施状況	R1年度 成果	今後の課題・ 取組等	今後の 進め方	推進した 組織
1	ギ 住 宅 設 備 ス マ ー ト エ ネ ル	再生可能エネルギーの利用や、省エネルギー設備の普及を図るため、住宅用スマートエネルギー設備の導入を促進するための施策を実施します。	住宅用スマートエネルギー設備導入促進事業 ○住宅に再生可能エネルギー利用設備等を設置した市民に奨励金を交付した。 ・太陽熱利用システム：6件 ・太陽光発電システム：235件 ・エネファーム：143件 ・リチウムイオン蓄電池：226件 ・V2H：2件 ・HEMS：82件 ・ZEH：32件	実施済	A	実施済	A	○導入コストの低減など市場の動向を見ながら補助メニューの見直しを行い、今後も支援を実施していく予定。	一部見直し	環境共生部
2	ル 次 世 代 ク リ ー ン エ ネ ル	次世代クリーンエネルギー自動車の普及を図るため、電気自動車や燃料電池自動車の購入を促進するための施策を実施します。	次世代クリーンエネルギー自動車普及促進事業 ○燃料電池自動車の購入者に対し購入奨励金を交付した。 ・交付件数：5件 ○電気自動車等の購入者に対し購入奨励金を交付した。 ・交付件数：37件	実施済	A	実施済	A	○令和3年度は、奨励金による導入への誘因効果や普及台数から、電気自動車への奨励金を終了。引き続きコストの低減や市場の動向を見ながら、支援を実施していく予定。	一部見直し	環境共生部
3	食 品 ロ ス の 削 減 【事 業 者 】 の 促 進	食品工場や飲食店、小売店等から廃棄される食品の削減に向け、事業者に対する食品ロス削減の取組を促進します。	事業者への食品ロス削減の啓発 ○市役所本庁舎食堂への普及啓発ポップ設置 ○飲食店キャンペーン(中止) ○飲食店訪問による食品ロス啓発物品の配布 ○食品衛生法に基づく新規許可取得事業者への食品ロス啓発冊子の配布(100者) ○食品衛生責任者講習会にて、新規受講者含む飲食店を対象に周知・啓発活動を行った(中止)。 ※(中止)については、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止としたもの。	一部実施	B	実施済	A	○食品ロスを出さない消費生活への転換を促すため、イベントでの物品配布や各種講座の実施を行うことにより、認知度を高め、行動へ結びつけていく。	継続	資源循環部
4	給 食 残 さ の リ サ イ ク ル	市学校給食センター及び市立小学校から給食残さ※を回収し、飼料化する取組を実施します。	給食残さのリサイクル 新磯小学校、大沢小学校、大野小学校、湘野辺小学校、谷口台小学校、中央小学校、清新小学校、相武台小学校、大沼小学校、桜台小学校、上鶴間小学校、橋本小学校、作の口小学校、大野北小学校、鶴園小学校、富士見小学校、小山小学校、上溝学校給食センターにて年間40,294kgを回収し、リサイクルした。	実施済	A	実施済	A	○回収校の拡充	継続	教育環境部

5	の過剰削減の促進、レジ袋等	事業者に対して、過剰な包装を行わないよう求めるとともに、マイバッグやマイボトルの利用促進を図ります。	過剰包装やレジ袋等の削減	○過大・過剰な包装の実態や他自治体における適正包装の指針等について研究を進めた。 ○相模原市レジ袋削減協力店事業を継続し、レジ袋の削減に取り組む店舗とその取組内容について市ホームページに掲載した。 令和2年度の登録数:23店舗 令和2年度末時点の全登録数:76店舗	一部実施	B	検討中	—	○適正包装や、レジ袋の削減について引き続き周知を推進する。	継続	資源循環部
6	大ごみ【新規資源】源化の拡大	家庭系ごみの更なる資源化に向け、新たなリサイクルシステムの構築に向けた取組を進めるとともに、使用済小型家電に含まれる有用金属のリサイクルについても、さらに拡大を図ります。	ごみの資源化の拡大	○有用金属リサイクルのため、使用済小型家電を回収し認定事業者へ引き渡した。 令和2年度回収実績 145t(対前年度比10%増)	実施済	A			○引き続き使用済小型家電を回収する。	継続	資源循環部

基本施策V 消費者意見の反映と連携の強化
 施策14 消費者意見の反映

No.	主な取組		事業名	取組状況	R2年度 実施状況	R2年度 成果	R1年度 実施状況	R1年度 成果	今後の課題・ 取組等	今後の 進め方	推進した 組織
1	析消 と費 施生 策活 へ相 話の 談反 映分	日々寄せられる消費生活相談の内容を分析して注意喚起や啓発を行うほか、必要に応じて新たな事業を検討するなど施策に反映させます。	消費生活相談の分析と施策への反映	○消費生活相談の内容を分析し、消費生活メールマガジンや地域情報紙などで注意喚起したほか、神奈川県が主催する会議等に出席した際に、情報提供しました。	実施済	A	実施済	A	○今後も消費生活相談の内容を分析し、最新の情報を提供できるようにする。	継続	市民局
2	の市 実民 施に と対 施す 策へ の意 識反 映調 査	市民を対象に、必要に応じて消費生活に関する調査を実施し、消費生活に関する現状を把握するほか、調査結果を踏まえて施策を展開します。	市民に対する意識調査の実施	○令和2年度より、第2次相模原市消費生活基本計画が施行されたため、中間改定までの間に調査項目を検討する。	検討中	—	実施済	A	○中間改定に必要な調査項目を検討していく。	継続	市民局
3	施事 と業 施ア 策ン ケー への 反ト 映の 実	消費生活に関する講座やイベント等の事業において、参加者に対するアンケート調査を実施し、事業の内容及び施策に反映させます。	講座等参加者に対するアンケートの実施	○市民向け講座や消費生活展において、来場者に対するアンケート調査を実施していたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止となり、実施ができなかった。	実施不可	—	実施済	A	○各種事業に対する参加者から寄せられた意見の分析を行い、今後の事業の推進に反映していく。	継続	市民局

施策15 消費者団体等との連携及び育成

No.	主な取組		事業名	取組状況	R2年度 実施状況	R2年度 成果	R1年度 実施状況	R1年度 成果	今後の課題・ 取組等	今後の 進め方	推進した 組織
1	連消 携費 及者 支団 援体 との	本市における消費者団体である「さがみはら消費者の会」に対し、事業の共催・後援や消費生活情報の提供等の連携及び活動場所の提供等の支援を行います。	さがみはら消費者の会との連携及び育成	○月1回の打合せ会を中心に、情報交換や事業共催等の活動協力の検討を通じて、団体の支援と育成に努めた。 ○団体が実施する事業に対し後援の許可を行った。 ・後援件数:1件	実施済	A	実施済	A	○団体の自主性を尊重しつつ、情報共有や活動支援を行っていく。	継続	市民局
2	と生 活活 連協 携協 同同 組組 合合	市内の生活協同組合及び相模原市生活協同組合運営協議会が実施する消費生活に関する啓発事業等について、連携を検討するとともに、後援等の支援を行います。	生活協同組合との連携	○消費者教育や啓発の趣旨に沿って、生活協同組合が主催する事業に対し後援の許可を行う。 ・後援件数:0件	制度利用 なし	—	実施済	A	○団体との協力体制を維持しつつ、今後も情報共有やイベントを通じて活動支援を行っていく。	継続	市民局

施策16 事業者団体等との連携

No.	施策	内容	事業名	取組状況	R2年度 実施状況	R2年度 成果	R1年度 実施状況	R1年度 成果	今後の課題・ 取組等	今後の 進め方	推進した 組織
1	る事 業者 の団 体推 進等 「と 新の 連携 」に よ	事業者団体等が実施している取組を活用し、連携した事業を実施します。 また、事業者団体等が行っている消費者市民社会の形成に係る先進的な取組事例等を紹介して、消費者の意識の醸成を図るとともに、意見交換の機会を設けることで、消費者と事業者の情報格差の縮小を図ります。	事業者団体等と連携した講座等の開催	○生活協同組合ユーコープとの食品ロスの削減に関する共催事業 ※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止	実施不可	—			○新型コロナウイルス感染症対策を講じて行える事業を検討していく。	継続	市民局
2	掲た 事業 「見 守者 り団 体の 推等 進」 と連 携し	地域に密着した事業者団体等と連携し、消費者被害の未然防止及び早期発見と救済を目的とした高齢者、障害者等の見守りを推進します。									市民局

3	相模原食品衛生協会との連携	市内の食品等事業者により、食品衛生の向上を目的として設立された相模原食品衛生協会が実施する食品衛生思想の普及・啓発事業への支援・連携を図ります。	食中毒予防キャンペーン	○例年、相模原食品衛生協会との共催で実施している食中毒予防キャンペーンやノロウイルス食中毒予防キャンペーンは新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止した。 ○食中毒警報及びノロウイルス警戒情報発令時に、相模原食品衛生協会を通じて周知啓発を実施した。	一部実施	B	実施済	A	○新しい生活様式に対応した実施方法を検討し、今後も団体と協働による食中毒予防の周知啓発を行い、市民の健康被害の防止に努める。	一部見直し	保健衛生部
			食品衛生指導員活動支援	○食品衛生指導員に対する衛生講習会は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止した。	実施不可	—	実施済	A	○効果的な自主巡回活動の支援に努める。 ○食品衛生指導員の資質向上に向け取り組む。	継続	保健衛生部
4	よる包 括相 連携 協定 に	本市と市内事業者との包括連携協定に基づき、買物環境の整備や大規模災害発生時の食料品・日用品の支援物資調達等様々な分野での連携を実施します。	救援物資供給に関する取組及びその他買物環境の整備に関する取組	○令和2年度は、救援物資供給等に関する取組実施なし。	制度利用なし	—	実施済	A	○今後とも、包括連携協定に基づく事業の継続と、さらなる連携に向け推進する。	継続	経済部
5	ミ食 のニ 安全 ケー シ ン 安 心 の 係 推 進 リ ス ク コ	食の安全・安心に係るリスクコミュニケーション(食品の安全の確保に関する情報及び意見の交換)を推進するため、消費者団体、食品等事業者、学識経験者及び市民で構成する「相模原市食の安全・安心懇話会」を開催し、情報提供及び意見交換を行います。									
6	進警 察と の 連 携 の 推	主に高齢者を狙った悪質商法や特殊詐欺などの被害が増加していることから、情報共有や啓発事業を通して警察と連携した消費者被害防止対策を検討します。									
7	育広 域 推 進 に よ る 消 費 者 教	本市周辺にある大学や国民生活センター、消費者団体等の関係機関との協働により、市域を超えた広域連携による消費者教育事業を行います。									
8	食に 関す る 団 体 と の 連 携 の 推 進	農業関係者や、食生活改善推進団体等との連携により、収穫体験や地場産物の視点を含んだ食育講座や野菜の普及啓発を実施し、食の選び方や食事のとり方等についての知識の普及を図ります。 また、食生活改善推進団体の会員の育成・支援を行います。	食生活改善推進員の育成・支援	○栄養改善の普及・推進を図るため、地域における食生活改善の推進者として食生活改善推進員を養成するための講座を開催した。また、相模原市食生活改善推進団体わかかな会に対し、必要な知識・技術を習得するための研修会等を実施した。 ・養成講座実施回数:10回 養成講座受講者数:15人 ・食生活改善推進団体わかかな会会員数:307人	一部実施	A	実施済	A	○食生活改善推進団体の会員数が減少してきている。新規会員を増加させるための養成講座の周知及び組み立ての検討や会員への研修会の内容の検討をしていく。	継続	保健衛生部
			ふるさとの生活技術指導士による食育事業【再掲】								
9	知 関 係 機 関 等 と 連 携 し た 周	警察や自治会など関係機関・団体が使用している周知・啓発媒体を活用して、消費生活に係る情報の発信を行います。									